
お馬鹿な二人のトキメキ妄想パラダイス 2

三亜野 雪子

タテ書き小説ネット Byヒナプロジェクト

<http://pdfnovels.net/>

注意事項

このPDFファイルは「小説家になろう」で掲載中の小説を「タテ書き小説ネット」のシステムが自動的にPDF化させたものです。この小説の著作権は小説の作者にあります。そのため、作者または「小説家になろう」および「タテ書き小説ネット」を運営するヒナプロジェクトに無断でこのPDFファイル及び小説を、引用の範囲を超える形で転載、改変、再配布、販売することを一切禁止致します。小説の紹介や個人用途での印刷および保存はご自由にどうぞ。

【小説タイトル】

お馬鹿な二人のトキメキ妄想パラダイス 2

【Nコード】

N8494B

【作者名】

三亜野 雪子

【あらすじ】

お馬鹿な啓太と妄想少女ゆりとの初デート話。2ということは続編です。えっと、妄想で呟いた言葉と啓太の質問がうまく話に乗っていくというのを頑張ってみました。読んでくれると光栄です！

私の王子様は少し小さいけれど、力強くて勇気のある想像通りの理想のお人。

今日は初めてのデート。

甘い甘い一時を過ごしましょう

よくわからないうちに彼女と付き合い始めた。

今日は初めてのデート。

……………うまくいくのかなあ？

お馬鹿で阿呆でヘタレな中学1年の佐藤 啓太は妄想少女白鳥 ゆりと付き合いを始めた。今日は2人の初デートなわけだが、啓太はそわそわして落ち着きがない。

「ゆりさん！」

「啓太様あ！お待ちしましたかあ？」

いつものようにピンクで白のふわふわな服を着てゆりは待ち合わせ場所に走る。先に待っていた啓太は大きく手を振った。

「いえ、全然大丈夫です」

「よかったあ。では行きましょう?」

にっこりと笑う彼女の唇には淡いピンクの口紅。ヒラヒラなワンピースに似合う綺麗な花のアクセサリー。服と同じ色の柔らかな帽子。白くヒラヒラとした日傘をさして、彼女はあいた手で啓太の手を握る。

啓太は心臓バツクンバツクンだ。

「あの、これからどこに?」

「啓太様にお任せしますわ」

こういった返答が一番困る。啓太は手の温もりに心臓をフル活動させながら辺りを見渡す。ここらは住宅街なのでこれといったものは何もない。

「じゃあ、とりあえず公園で話でも」

提案している啓太を他所に彼女は自分の世界に入っていた。

念願の王子様とデート。
何て甘くて嬉しい時間。

これから私達は愛を深め合って結婚して子供3人（決定済）作って
……………。
本当楽しみだわあ

「あの、いいですか？」

「いいわあ」

もちろん彼女の返答は自分の妄想に対してのものなのだが、啓太にはわからない。公園に向かうとそこにはパツとしない遊具と数個のベンチ。

「やっぱり何もありませんね」

「公園は私、結構好きですわ」

明るく言われた言葉に胸を撫でおろした。普通なら気を遣って言う言葉だが、彼女の場合はそうではない。本当に公園という場所が好きなのだ。呆然と立ち尽くしている間に彼女はまた妄想の世界へゴー！

だって公園で言えば恋人の甘い一時を過ごすための大事な場所。
こんなロマンチックな場所に啓太様と行けるなんて
私ってばし・あ・わ・せ・も・の

勝手にやっている。自分の世界に入っているゆりに啓太はまだ気付かない。それどころか先ほどの彼女の言葉に彼も思考を巡らせる。

公園かあ……………この人もこういうところで走り回ったりするのはなあ。

彼の頭にはふわふわな服のまま走り回るゆりの姿が想像される。何かおかしい図だと頭を捻った。やはりお馬鹿だ。大体何故好きだと言っただけで走り回るといふ考えが出てくるのか。

「啓太様。とりあえずあそこのベンチに腰かけましょう?」

「あ、はい」

数人の子供がすべり台などで楽しそうに遊んでいた。ベンチの目立った汚れをはらってゆりを座らせる。何気ない気遣いは馬鹿な啓太でもできるらしい。

「啓太様はまだ中学1年生なんですよね?」

綺麗な声音で問われて、意味もなく一瞬ドキリと心臓がはねる。

「あ、はい。百合さんは高3なんですよね？えっと……………進路は決まってるんですか？」

将来……………

現実で考えるのははつきり言っただけ　　いいえ、憂鬱だけ
れど

高校卒業後は啓太様が大人になられるまで女を磨き、お金を貯めて
そして最後には

「結婚……………」

「え！？もう！！」

啓太の驚きの言葉は彼女の耳に入っていない。聞き慣れない言葉に
彼は次第に青ざめていく。あまりない脳細胞を働かせて彼女の言葉
の意味を必死に考える。

高校卒業してすぐに結婚ってことは誰か婚約者でもいるのか！？
困る！それは困る！！

くだらだらと汗を流して啓太は硬直する。そうとも知らず、ゆりも自

らの妄想を繰り広げている。お互いに同じ時間を過ごし、異なる世界に行くこの2人が交わる時は少い気がする。こんな器用なことができるカップルはおそらくこの2人だけだろう。

「啓太様は男の子と女の子どちらがいいですか？」

「へ？ちゅ、中間」

明らかに子供の話をしているゆりに意地悪なのか、答えにならない返事をする。中間とはオカマなのだろうか？

「私は双子がいいですわ」

見事にスルーだ。女と男両方いれば中間という要望は果たされるかもしれない。というか何故2人はいつまでも気付かないのだろうか。

子育てはもちろん2人で力を合わせて

休日は子どもたちと一緒にピクニック。

手作りお弁当を食べて陽が暮れるまで遊ぶの。

疲れて寝てしまった子供達の横で今度は大人の時間を………
きや

「ねえ、啓太様。新婚旅行はハワイがいいですわね？結婚式はどこがいいですか？」

「へっ？つてか俺とのことですか？」

「私は海が見える所がいいですわ」

またしてもスルー。うっとり空を眺めてその時のことを想像する。啓太は少し淋しそうにゆりに視線を向けて更に続く言葉を聞いた。

「皆様から祝福される中で青く綺麗な海を眺めながら愛を誓う。何てロマンチックなんでしょう。あ、結婚式もハワイでどうでしょうかあ？啓太様は燕尾服がよく似合うと思いますよ？」

「ほ、本当ですか？ゆりさんも……………えっと、ウエディングドレスが似合うと思います」

やっと誤解が解けてほっとする。青かった顔は一気に赤く変わり、見るからに戸惑っている。ほわほわとした柔らかい笑みを向けて、ゆりはじっと啓太を見つめる。

「年の差を気にする方もいらっしやると思いますが、私のことをずっと好きでいてくれますか？」

「もちろんです。最初に貴女を好きになったのは俺ですから、最後までずっと一緒にいます」

結局のところ、初デートは成功で終わったようだ。お互いに違う世界にいつてしまう2人はすれ違うことも多いが、何とか話が通じているようだ。

2人は本当に最後まで愛し合えるのだろうか？それはまた別のお話。

初デート。

次のデートが待ち遠しいほどとてもいい時間でしたわ。啓太様との思い出をこれからいっぱい作りたいですね、け・い・た・さ・ま

初デート。

最後まで公園だったけど、彼女との会話は飽きない。つてか気が抜けない。

これから俺は彼女のついていけるのかなあ？

(後書き)

はい、本当に真剣に読んではいけない話ですね。友達の要望でこの話は短編で長々続けさせてもらいます。1の方でもそう望んでくれた方がいたので、とても嬉しかったです。

これを読んで面白いと思ってくれた方はできれば感想評価送って下さると嬉しいです。

PDF小説ネット発足にあたって

PDF小説ネット（現、タテ書き小説ネット）は2007年、ルビ対応の縦書き小説をインターネット上で配布するという目的の基、小説家になるうの子サイトとして誕生しました。ケータイ小説が流行し、最近では横書きの書籍も誕生しており、既存書籍の電子出版など一部を除きインターネット関連に横書きという考えが定着しようとしています。そんな中、誰もが簡単にPDF形式の小説を作成、公開できるようにしたのがこのPDF小説ネットです。インターネット発の縦書き小説を思う存分、堪能^{たんのう}してください。

この小説の詳細については以下のURLをご覧ください。
<http://ncode.syosetu.com/n8494b/>

お馬鹿な二人のトキメキ妄想パラダイス 2

2010年10月22日00時09分発行